

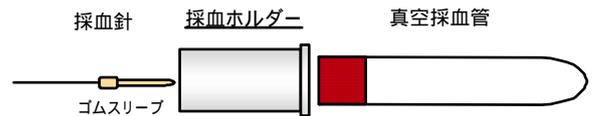
臨床検査ニュース

平成 18 年 5 月 8 日

真空採血管を用いたより安全な採血法を目指して(最終版)

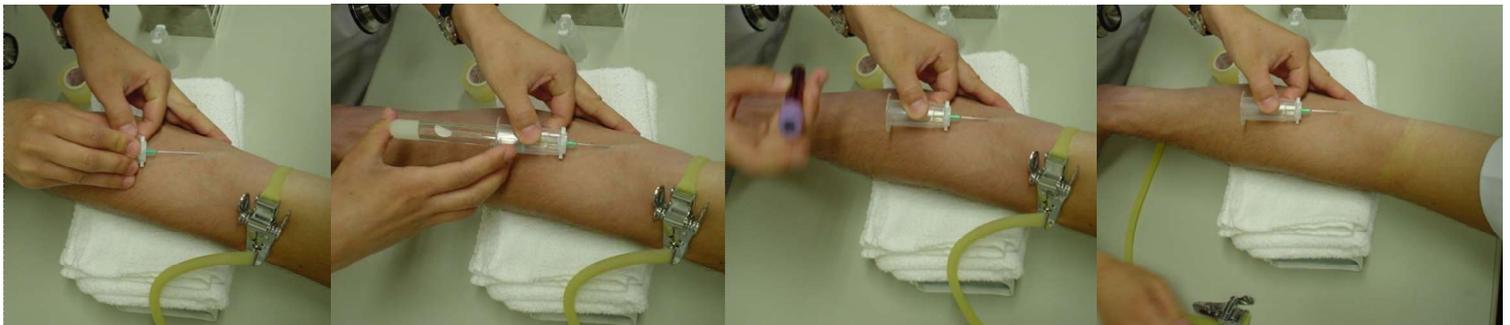
2005 年 1 月厚生労働省医薬食品局安全対策課より「真空採血管等における使用上の注意等の追加等について」が発表されました。それによりますと、

- A. 滅菌済み真空採血管
- B. 単回使用専用の採血ホルダー
- C. 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針



A は逆流細菌感染、B、C は交差感染の危険性を回避するための条件であり、以上がすべて揃って採血する場合には、駆血帯を装着したままで採血することができます。当院におきましても、5月より、採血ホルダーの単回使用(ディスポ)が開始され、上記の全ての条件が揃いました。

以上より、真空採血管を用いた採血手順を以下のように改定いたします。



駆血帯を巻いて採血針を穿刺

採血管をまっすぐ完全に押し込む

血流停止後、直ちに管を外す

採血管をはずしてから、駆血帯を緩める

室内温度になった採血管を準備する。

駆血帯を巻き、皮膚消毒後に採血針を血管に穿刺する。

採血管はホルダーにまっすぐ完全に押し込むこと。

採血の血流が停止したら、直ちに採血管を採血ホルダーから外す。

連続採血する場合には、ホルダーを固定したまま、採血管を取り替える。

採血を終了する場合、採血管をホルダーからはずしてから、駆血帯を緩める。

採血ホルダーは感染性廃棄物として専用 Box へ捨てる。

従来は採血の際、採血管を装着する前に駆血帯を外すことを原則としておりました。なぜならば、採血ホルダーから採血針を外すときに、採血針のゴムスリーブから漏れ出した血液が採血ホルダーに付着します。次の患者様にそのホルダーを使用する際に、ホルダーに付着した血液が採血管内に入り込み、駆血圧から平常静脈圧に戻した際の血液の逆流現象によって、体内に流入する危険性があることが指摘されていたからです。

参考:1) 日本臨床検査標準協議会 標準採血法ガイドライン 平成 16 年 7 月

中央検査部採血室 菊地 勝恵

臨床検査医学教室 検査専門医 腰原 公人

(Clinical Test News No.17/2006. 5)